

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 福寿荘
(ユニット名)	第1ユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県魚沼市与五郎新田13-7
記入者名 (管理者)	磯部 清
記入日	平成 20年 6月 6日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>自然豊かな地域の中で、楽しく生き生きと生活出来ることを目標にサービス提供している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>目に付きやすい玄関や事務室に理念をかがげ、取り組んでいる。</p>	<p>入居者がその人らしく生活できるように、職員が協力し合って支援していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に家族や地域の方に参加していただき、事業所の活動を報告して理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日々の買い物や散歩で、地域の方との気軽な交流のきっかけを作っている。</p>	<p>歩道に面して花壇や畑をつくり、近所の方々からも、声をかけてもらっている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の文化祭に入居者が作品を出品したり、地元の方たちから踊りのボランティアに来てもらっている。また、福寿荘の夏祭りには家族や近所にも声をかけてきてもらっている。</p>	<p>文化祭、演奏会など地域の行事に参加している。</p>
	事業所の力を活かした地域貢献		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	他事業所の研修生の受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解して、評価の結果は改善するように取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日頃の状態報告や問題提起をさせてもらい、意見を聞かせてもらっている。		運営推進会議に参加された近所の方やご家族からは、貴重な意見をいただいている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区ケア会議で現状報告したり、入所判定会議に市の職員に出席してもらい一緒に協議している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今現在、必要性のある人は入所していないが、学ぶ機会は少ない。		全職員が最低限の知識習得するように講習会などあれば参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員ともに虐待が見過ごされないように、注意は怠っていない。		市で行う研修などで学ぶ機会をもつようにしたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、質問を受けて理解してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食堂の掲示板に苦情受付窓口の連絡先を明記している。		入居者から不満、苦情などあった場合、管理者と職員が話し合い、改善に努めている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の様子に関しては毎月、家族へのお便りで報告している。健康状態は受診後、特別な事は電話連絡したり、金銭に関しては来所時にこづかい帳の確認をもらっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で意見をいただいたり、面会時にお話を伺って取り組んでいる。		玄関に設置した意見箱が活用されておらず、検討の余地がある。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の申し送り時に意見を聞いており、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事を計画した際には、予め職員数を増やしたり、緊急時も柔軟に対応している。		少ない職員数で時間に追われ、1人ひとりの入居者の希望に添えない時もある。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職がある場合は、あらかじめ入居者に説明しており、入社した職員は事前にきてもらい、馴染んでもらえるようにしている。		

5. 人材の育成と支援

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた研修を受ける機会が確保されている。		研修の資料は全職員が回覧している。また、カンファ時にも伝えるようにしている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村のグループホームの集いに参加して情報交換したり、入居者と一緒に他事業所を訪問して交流の機会をもったりしている。		多くの職員が気軽に相互訪問ができるように機会をつくっていききたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の設置、忘年会、懇親会など行っている。		業務優先になりがちで、なかなか休憩が取れないこともあり、改善できるように取り組んでいきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の機会を設け、各自がレベルアップ出来るようにしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回、面談時に話を聞き、その後は日々の関わりの中でお話を伺うようにしている。		居室担当を設け、話をよく聞くように心がけている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どのようなことで困っているのか、何を望んでいるのか聞かせていただくようにしている。		面会時にお話を聞くようにしている。
初期対応の見極めと支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けながら、支援が難しい事は包括支援センターの職員に協力を得て対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、見学に来ていただくようにして、ご本人に理解してもらってから入居を心がけている。また、生い立ちや生活歴など予め得た情報により入居者の方が不安や混乱が無いようにそして周りの方も自然に馴染めるように職員間で検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活するという視点で接している。入居者と職員の双方が時間を共有しながら、少しずつ、お互いを理解し、よい関係を築くように努力している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定例の報告だけでなく何かあった時等は連絡を取り合い、双方の状況を理解し合えるように心がけ、家族と職員の思いが重なるように努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出や外泊で一緒に過ごしていただいたり、ホームの行事への家族の参加を呼びかけたりして、より良い関係が築いていけるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、商店街への外出援助している。また、日頃の会話等からヒントを得てこちらから「行ってみませんか？」と声掛けすることもある。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難しい人間関係もあるが、孤立することの無いように食事の席に配慮したり、一日中居室に籠もることの無いように声かけをして共通の話題で楽しんでもらえるように心がけている。		自分から声を出さない入居者には職員から関わるようにようにして1人、孤立しないように配慮している。
	関係を断ち切らない取り組み			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した病院に様子を見に行ったりして、入居者や家族との関係を大切にしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動などから本人の希望、意向の把握し、暮らしやすい方向に持っていくようにしている。対応に悩む時は他職員とも相談して本人の意図する方向へもっていけるようにしている。		意思の疎通が難しい方は、ご家族を交えて検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞いたり、本人に会話や知人が来所された時などに話を聞いて把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らし方については、把握に努めてその方にあったケアを出来るだけ提供している。心身の状態、変化は生活記録、バイタルチェック表、申し送り等で把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「その人らしく」を大切に、状態にあったケアが出来るように本人、家族から話を聞き、モニタリングやカンファレンスで意見交換している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて家族や職員と相談して対応するようにしている。		よりよいサービスの提供のため、職員間で話し合い、家族とも確認を取っているが、計画書の見直しが遅れがちなところは改善していきたい。
	個別の記録と実践への反映			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録が生かせるように介護記録の様式を改善して、職員からも意見を出し合い、検討しました。		今後も必要があれば、改善して使いやすい記録にしていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院の送迎や付き添いをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に応じて支援している。		周辺施設への働きかけ、ボランティアへの協力をこれからも呼びかけていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や事業所で必要ありとの判断が出たときには、特養に申請、入所の支援をおこなっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や入所判定会議には包括支援センターの職員も出席してもらい、協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望する馴染みのかかりつけ医が往診にきている。家族が通院介助をする時は、日頃の様子を書いた受診表を渡している。また、心配なことは関係者にこちらから問い合わせるようにしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に認知症の専門医があり、必要に応じて受診したり、相談にのってもらっている。		今後も専門医と相談して、適切な治療を受けられるように支援していきたい。
	看護職との協働			



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	疑問に感じたことは、かかりつけの病院の看護師に聞いたり、主治医に相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、担当の看護師に連絡を取り、状態把握をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきているが、まだ具体的な話し合いはない。		終末期の対応について、話し合いの機会を持つようにしたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者がいないため、準備はおこなっていないが、今後、検討していきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の状態、今までの支援内容、注意点等の情報を提供している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを傷つけないような、言葉かけを心かけている。個人情報の取り扱いにも十分注意している。		
	利用者の希望の表出や自己決定の支援			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人が希望を言えるように働きかけ、自己決定の支援をしている。意思の疎通の難しい方は様子、行動をみて個別に支援している。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮し、本人の気持ちを尊重して支援している。		個別に希望を把握して、入居者が主人公となって暮らせるよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容院等、希望にあわせて来所してもらったり、出かけたりしている。衣類などは馴染みの店に買いに行けるように支援している。		自分から要求しない方にも、身だしなみやおしゃれが出来るように配慮している。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる時は好みを考えながらたてているし、食べたいものを聞くようにしている。準備や後片付けは個人の力に応じてしてもらっている。		食事の好みが違うので、1人ひとりの好みを把握して献立を立てている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は一緒に買い物に行ったり、希望のものを注文して配達してもらっている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用してパターンを把握したり、夜間は声をかけてトイレでの排泄を促すなど、個人個人にあわせて支援している。		失敗しても自己嫌悪に陥らないように、対応している。
57	入浴を楽しむことができる支援 唯一の時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて	毎日、午前か午後の好きな時間に入浴してもらっている。		本人の希望する時間帯に入浴している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう	様子を見て声をかけ、必要に応じて休憩してもらっている。		夜間、安眠できるように日中の活動を考えて支援している。
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  振り回いや音ひのめるロクを廻こせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、遊	「一緒に生活する」を大切に出来ることはお願いしたり、時には利用者の方に教えていただきながら仕事をする時もある。感謝の気持ちは言葉だけでなく表情や態度でも表すようにしている。		1人1人に役割を持って生活していただけるように、本人の希望を聞いたり、職員が考えて工夫している。
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて	個人の能力に応じて支援している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中たりて廻こせると、一人ひとりの日々の希望によって、戸外に出かけられるよう	気分転換になるように日常的に散歩や馴染みの店に出かけている。職員の勤務状態で希望に添えないときは、きちんと説明して後日、対応させてもらっている。		天気の良い日は散歩、買い物など本人の希望を聞き、戸外へ出られるよう声かけを行っている。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行つしみにい音枝は行けないくるに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	本人が昔、住んでいたところに車で行ってみたい、全員で食堂に行つて外食を楽しんだりしている。		これからも入居者の希望を伺って対応していきたい。
63	電話や手紙の支援  家族や入切な人に本人曰りか電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に添って支援している。		希望時は、いつでも事務所の電話を使用してもらっている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ご	気軽に来ていただけるように声をかけている。来所時は、ホールでお茶を飲んでもらったり、居室でゆっくり過ごしていただいたりしている。		気持ちよく出迎え、居室でも共有の和室でも気楽に使用できるような声掛けを心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>理容員及び主たる職員が、介護保険法指し 其準における禁止の対象となる具体的な行</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践をしている。</p>	<p>花の水やり等で自由に出入りしている。散歩に出かける時 は一緒にでかけるように声かけをしている。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>理容員及び主たる職員が、店全戸ロケル に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵を</p>	<p>正しく理解して鍵をかけないケアを実践している。</p>	<p>玄関にセンサーを設置して出入りの注意を促している。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のフロアハンマーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安</p>	<p>昼夜共に職員が廊下とホールを見渡せる所で記録を書いて いる。日中、その場を離れる時は声を掛け合っている。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一併になく90度はなく、 一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組</p>	<p>入居者の状態を見ながら、職員同士で話し合っている。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、至急、誤食、行方不明、火火事を防 ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた</p>	<p>日頃から十分念頭に置き仕事をしており、ヒヤリハット、事故 報告書で個々に対処を考え、全職員で話し合い対応してい る。また、マニュアルを整備し、訓練も行い講習を受けた場合 はその得た知識を報告している。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、主たる 職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的</p>	<p>市で行っている救急救命講習に参加して知識と技術の習得 をしている。</p>	<p>急変時のすばやい対応が出来るように、これからの機会ある ごとに積極的に参加していきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火火や地震、小舎守の火火時に、急役を回 わす利用者が避難できる方法を身につけ、日</p>	<p>日中、夜間と想定して入居者と共に避難訓練を行い、その都 度、改善点を話し合っている。また、消火器の使い方の訓練 もしている。運営推進会議で地域の方の協力をお願いして いる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい</p>	<p>リスクに関しては家族に説明し、理解していただいた上で対応している。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し</p>	<p>状態の変化には注意しており、記録と申し送りで情報の共有をして、適切な対応をとるようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解してお</p>	<p>薬カードを個別にファイルして、薬について疑問があればすぐ確認できるようにしている。内服時は薬の確認、内服の確認をしている。薬が変更になった時や心配な事がある時は記録を取り、主治医に相談している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を</p>	<p>水分摂取や適度な運動をすることを取り組んでいる。</p>	<p>食材にも食物繊維を多く含んでいるものをメニューにとりいれるようにする。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが主な原因で、母良後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援</p>	<p>食後の歯磨きの励行。声かけだけでなく、必要な方には介助している。口腔内に変化があった場合にはその都度状態に合った口腔清掃をしている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>良食の量や水分摂取の量、水分量が一口を確保できるように一人ひとりの状態や力</p>	<p>食事の摂取状況をチェック表に記入し把握している。一人ひとりの食事の好みに合わせた形態でたべてもらっている。</p>	<p>昨年、栄養士のアドバイスを受けて、見直しを行った。今後も機会を設けて、適切なアドバイスを受けたいと思っている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に気を付けるための取り組みの取り決めのほか、実施している(インフルエンザ、疥癬、肝</p>	<p>マニュアルがあり、大切な事は掲示してある。地域で発生した場合は、予防、早期発見、対処方法を職員で第度確認し迅速な対応ができるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で	衛生管理の取り決め通り努め、食材は翌日の分を毎日配達してもらっている。		調理用具や台所の衛生管理をして、定期的に清掃、消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者が家族、近隣の入居者にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建	明るい雰囲気になるように季節の花をいけたり、入居者が作った作品を飾っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な	国道沿いのため、車の音などが騒がしいが、1日中カーテンが閉め切っている事のないようにして、季節の移り変わりが感じられるように随所に花を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになったり、外のロビーを利用者同士で利用しているように過ごせるような居	居室で一人になったり、脱衣場の長いすで仲良し同士おしゃべりをしたり、玄関外の椅子に座り、景色を眺めたりと好きなようにしてもらっている。		共有空間としての和室の利用頻度が少ない。段差があったり、畳に座れない方がいたりするが、安全に利用する方法を考えたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室の住みやすさは、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを	本人の希望を重視し入居者が今まで使用していた物を持ってきてもらい、居室に置いている。写真や日用品を居室内に持ち込み、居心地の良ように配慮している。		畳を持ち込んで和室仕様になっている方もおられる。
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が	居室や食堂、和室に強制換気扇を使用している。また、居室内のエアコン、ヒーターは職員がこまめにチェックして調整している。		外気との温度差が極端にならないように配慮している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物の内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。	段差のあるところや廊下、トイレ、浴室等手すりをつけ、安全を心がけている。ベランダの物干しは丈の低いものも用意して使いやすいようにした。本人の身体レベルにあった歩行器を使用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や大失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	不安なことには本人に聞きながら対処している。トイレには、大きな目印をつけてあり、各居室にも目印の花がつけてある。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	出来るだけ外に出る機会を増やし、皆で日向ぼっこをしながらお茶を飲んだり、庭いじりが好きな方には、小さいが花壇を作り、楽しんでもらっている。		玄関先に椅子を置いてあり、いつでも外気浴が楽しめるようにしている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常のごく些細なことでも、ご家族と連絡を取り合い、入居者のために一番快適な環境を、と考えている(身体的、精神的)今まで自由に暮らしてきた方たちが、共同生活を  
 する中で、不満が鬱積しないように、自分の希望が言え、笑顔で暮らせるように職員は奮闘している。